

資金会計理論そのものや、表の活用についてお問い合わせを多く頂きましたので、Q&A 方式でお答えいたします。

資金会計理論についてのご質問やご相談などは、遠慮なく当事務所までお問い合わせください。

#### **Q.資金会計理論とは**

A.久留米市で開業されていた税理士・故佐藤幸利先生が考案された、まったく新しい会計の考え方です。これを理解する事により、真の財政状態及び経営成績を理解することができます。

又、この理論は後付理論ではなく、現在、未来の真の財政状態及び経営成績を明らかにしてくれます。

#### **Q.資金別貸借対照表とは**

A.資金別貸借対照表は貸借対照表及び損益計算書、資金繰り表、キャッシュフロー計算書を1枚の表に色分けしあらわした表です。企業の資金をその性格別に自己資金、その他の資金に分け、さらにその他の資金を固定資金、売上仕入資金、流動資金に分類しています。

#### **Q.資金会計理論で作成する表は資金別貸借対照表だけですか。**

A.資金会計理論で作成する表は資金別貸借対照表の他に、ニュー資金別貸借対照表、格付表、資金総括表があります。

いずれも真の財政状態及び経営成績を明らかにすることができます。

Q.資金別貸借対照表の作成は難しいですか。

A.資金別貸借対照表の作成はちょっとしたコツがありますが、作成するのは難しくはありません。

むしろ作成した資金別貸借対照表を利用して、財政状態及び経営成績を理解し、どう変えていくかの方が難しいかもしれません。

Q. 資金会計理論の利益と制度会計（税務会計）の利益とはどう違うのですか。

A.制度会計（税務会計）の利益は、納税する為の数値と考えています。

例えば、固定資産を取得した場合不動産取得税が課税されますが、会計処理は①資産に計上する、②経費として計上する、いずれも認められています。通常は②の経費として計上します。

又、減価償却についても定額法、定率法など選択することができます。資金会計理論の利益は「自由に使える現金」と定規していますので、会計処理の方法によって利益が変わること、すなわち財政状態及び経営成績が変わることはありません。

制度会計の利益は1つではないのです。